

お目を拝借

第14回 技能オリンピック開催

2015年10月20日
向井建設株式会社
経営企画部

10月18日(日)、東京職長会との共同主催による第14回技能オリンピックが、埼玉県三郷市のサンケイスポーツセンターで行われた。当日午前には曇り空のなか心地良い陽気だったが、午後は一転、日差しが強くなり応援だけでも汗ばむほどの秋晴れとなった。今年は83名の競技参加者を含め、総勢333名の関係者が参加。家族連れも多く、子供向けの催しとしてお菓子の掴み取りが設けられた。競技開始前に行われた体操の際には昨年同様、筑波大学大学院からお越しいただいたインストラクターにご指導いただき、また、お昼にはSRGTアカミヤ（注）より次世代足場「I-a（アイキュー）」システムの披露があった。さらに（注）社大同機械からは毎回恒例でお昼の楽しみにもなっているトン汁を提供していただいた。競技種目は1級競技「真つ小屋組」、2級競技「片流れ小屋組」、仮囲い競技「フラットパネル組立」、コ口曳き競技、玉掛け競技の5種目で、選手はそれぞれの競技で技を競った。

1級 競技



優勝 織田 慎 社員
まこと

(染谷班)

1級競技で優勝したのは、向井建設・染谷班の織田慎さん(28歳・経験9年)。昨年は仮囲い競技に参加したが、開催2週間ほど前に突然、1級競技に出場するように言われ参加することとなった。優勝できたことに織田さんは「驚きです」と物腰柔らかく笑顔で応えられた。結果に対して「6月にとび1級技能検定の練習で2度組んで、7月に試験に合格。その成果だと思っております」と話してくれた。インパクトレンチが主流となった今日だが、「ラジエットを使う機会はまだまだ多い。同じ現場に後輩が配属されたら、ラジエットの使い方を教えていきたい」という。いまは同じ染谷班の筑紫さんと二人で現場を収めている。マンツーマンで指導を受ける中で、多くのことを学んでいる。「筑紫さんは他工種の仕事を熟知しているのだから、相手が次に何をやるのか、その先を見て作業できる人。そういうところを学びとっていききたい」と織田さん。



1級競技で優勝した織田さん

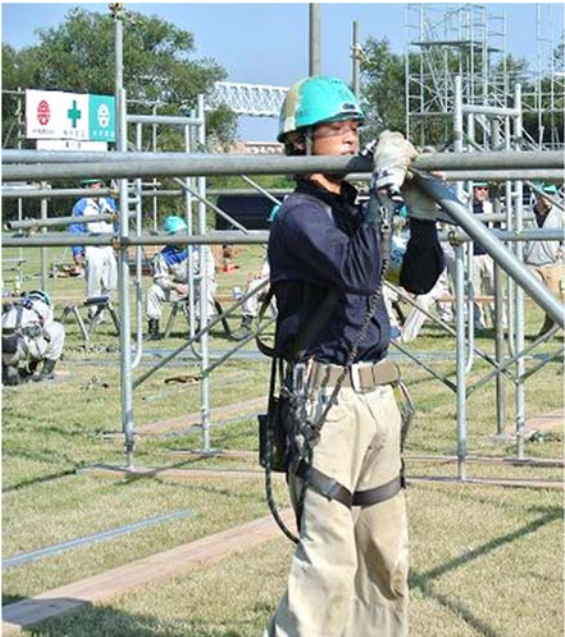
2級 競技



優勝 井郷 聖斗 さん
いこう きよと

(株式会社 昂工業)

2級競技の優勝は、株式会社 昂工業の井郷聖斗さん(26歳・経験9年)。優勝に対して「うれしい」と率直な気持ちを伝えてくれた。井郷さんは9月ごろこの競技への参加の誘いを受けたが、「乗る気ではなかった」という。仕事が繁忙を極める中、休日は体を休めたいという気持ちが強かった。しかし、「出ればいける」という自信が職人魂を駆り立てた。井郷さんは競技に向けて2回の練習を積んだ。1回目は向井建設・技士の館、あとの1回は技能オリンピック会場に準備された競技種目の完成品を組む際。「これが本番の競技では生きていた。体が思い出した」という。普段の仕事ではラジエットを使う機会が減ってしまった。現場で心掛けていたことは、「けが人を絶対に出さないこと。そして自分よりも周りを見ること」。これは以前先輩から教わったことで、いまでも実践しているという。



2級競技で優勝した井郷さん

技能五輪

金賞狙う！技能五輪出場に向けて

野田 貴大 社員
たかひろ

この日の1級競技には、12月2日から6日にかけて千葉県で行われる、第53回技能五輪全国大会とび職種に参加する野田貴大社員(21歳・直轄施工部)も参加した。「昨年は荒川真さんが金賞を取っているのだから、自分も金賞を狙いたい。緊張しやすいので落ち着いて出せるだけのものを出す」と意気込んだ。課題となっている「登り桟橋高床式小屋組」は、通常一人で組むことはなく、しかも競技ではインパクトレンチの使用が禁止されている。並はずれた運動量を要求されるが、野田社員は「普段、運動量の多い先輩社員に混じって仕事をしているので大丈夫」と自信を見せた。今回の課題は昨年とは少し違っている。前回までは課題中央部に登り桟橋があったが、今回は側面に取り付ける。スロープの板にしても均等に配置しなければならず、番線の縛り方も技が要求されるという。この点を踏まえて、11月9日から山社員のもと技士の館で練習を開始する。



野田社員は技能五輪で金賞を狙う

本番では「高所作業時には二丁掛けを忘れず、物を落とさず、そしてミスを少なくして臨みたい」と落ち着いた表情で話してくれた。そして「金賞を狙って一生懸命頑張る」と意気込みを語ってくれた。

指導にあたる

山 寛さんから一言

指導にあたる山寛さんは、野田くんについて、「彼は素直です。いまは技能が優れているという問題ではなく、素直が一番。見ててください」と力強く話してくれた。「正直プレッシャーは感じていますが」と話すものの、山さんからは、前回の結果が自信に繋がっている様子が伺えた。練習ではこれまで同様、「緻密に時間を計測して制限時間をいっばいに使い、正確な作業を目指す。練習の結果を見て少し難しい組み方に挑戦してみたい」と指導者としての余裕をのぞかせた。

最後に山さんは、「前回同様、優勝を獲れるように頑張るので、みんなの応援よろしくお願いします」と話した。

ベトナム人

技能実習生 上位入賞

今年も14名のベトナム人技能実習生が競技に参加した。競技ごとの参加人数は、1級競技に4名、2級競技に7名、玉掛け競技に3名。昨年の大会では2級競技でファム・ヴァン・フォンさんが準優勝したが、今回はブイ・ヴァン・ズンさんが1級競技で準優勝を果たした。「自分の名前が呼ばれたときビックリした」というズンさん。来日して2年半ほど経つが、いろいろな人に仕事を教わっている。今では「自分にもできる」と自信が付いたという。足場を組む仕事は自分で考えると同時に、みんなの意見をすり合わせて一番良い答えを導くのが楽しいという。そして、現場では「安全帯の使用を絶対に欠かさないと、安全意识も日本人レベルだ。後に続く後輩たちには「現場には危険が多い、気をつけて作業して欲しい。そして、日本語を勉強すること。現場ではコミュニケーションが大事」と話してくれた。



1級とび競技で準優勝したズンさん